

第2回（仮称）新石垣市立八重山博物館建設検討有識者会議（要旨）

- 日 時：令和3年7月29日(木) 14:00～15:40
- 場 所：大濱信泉記念館多目的ホール
- 出席者：石垣会長、天久副会長、石垣委員、大城委員、小切間委員、翁長委員、親盛委員、花城委員、高良委員、與那國委員
- 会議次第
 1. 開会
 2. 第1回会議要旨の確認
 3. 議事
 - (1) 審議第1号 基本理念とコンセプトについて
 4. その他
 5. 次回の会議日程について
 6. 閉会
- 会議要旨

1. 開会

（事務局）

こんにちは。皆さんおそろいですので始めたいと思います。委員の皆様にはご多用のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルスの影響により第2回会議の日程が本日まで延期になりましたことご容赦願います。

会議に入る前に、新型コロナの緊急事態宣言期間中における本有識者会議開催の考え方についてご説明いたします。

前回会議の際に調査しましたオンライン会議での開催につきましては、対応不可との回答の方が一定程度いらっしゃったほか、対面会議が望ましいとのご意見もありましたので会長と相談したところ、対面での会議開催としております。

また、緊急事態宣言の期間が8月22日まで延長されたことに伴い、新型コロナウイルスワクチンの接種状況について、委員の皆さまに調査させていただいたところ、ほとんどの方が2回目の接種を終えておりますので、そのことを会長に相談し了承の上、本日の開催にいたっております。次回会議を予定している8月19日につきましても同様に開催する予定でございます。

それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、事前に郵送等で配付いたしました第2回会議資料と第1回会議要旨の2点でございます。なお、第1回会議要旨については、委員皆様からの修正等を取りまとめたものを机の上に配付してありますので差し替えをよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから第2回（仮称）新石垣市立八重山博物館建設検討有識者会議をはじめさせていただきます。ここからの議事進行につきましては、会長にお願いさせていただいております。会長、よろしくお願いいたします。

2. 第1回会議要旨の確認

（会長）

新博物館建設検討有識者会議をはじめたいと思います。それでは、はじめに第1回会議要旨の確認について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、第1回会議要旨についてご説明いたします。

第2回会議の日程を延期する文書を送付した際に、会議要旨の内容に係る調査票を添付させていただきました。委員皆様からの回答を整理しましたところ、委員名表示が大多数でございましたので、本日配付しました第1回会議要旨につきましてもその内容で作成してあります。事務局としましては、石垣市ホームページ等で公開する際にもその内容でと考えております。事務局からの説明は以上でございます。

(会長)

お手元に本日配付してある第1回会議要旨の内容で石垣市のホームページ等での公開を予定しているということですが、このような内容でよろしいでしょうか。

(各委員)

・ ・ (異議なし) ・ ・

(会長)

それでは、今回以降の会議要旨の作成につきましてもこのような内容で作成するようお願いいたします。

3. 議事

(1) 審議第1号 基本理念とコンセプトについて

(会長)

会議を進めます。次に、基本理念とコンセプトについて、事務局より説明をお願いいたします。

・ ・ 事務局より資料に基づき説明 ・ ・

(会長)

事務局の説明は終わりました。ご質問等がございますか。

(天久委員)

今回、事務局からたたき台として示されたものと平成27年の基本構想の違いがあればその辺りの説明をお願いします。

(事務局)

資料の3ページの3のところは、あくまでも事務局のたたき台として議論のきっかけになればということで出していますので、委員の皆様はこれに縛られることなく、ご意見を出していただきたいと思います。

27年3月の基本構想との違いということですが、博物館が開館して来年で50周年を迎えますけれども、市民の利用が非常に少ない状況にありますので、市民に愛される博物館、市民や子供たちが利用する地域に密着した博物館のあり方を模索しつつ、観光客のニーズにも応えられるようにしなければならない。27年の基本構想でもそのようなことに触れていますし、デジタル博物館という考え方も以前からありますので、これらを含めながら将来的にはこのような博物館像ということで提案させていただいております。

(花城委員)

前は欠席で大変申し訳ないと思っています。その後、どのような形で貢献できるかということで色々な資料を見せていただきました。

八重山博物館の計画については、平成10年に立派な報告書が出ていて、これを読むと、前回、高良先生からアジアに開かれた交流のある博物館という話がありましたけれども、この基本計画の中にそれが謳われていまして、非常に立派なコンセプトができていますので、それをベースに考えたほうがいいのではないかと思います。

現在の博物館の理念である地域に根ざし、地域に学び、地域に奉仕する博物館、これもいいとは思いますが、時代は変化して外国からのお客さんも多く入ってきていますので、地域だけではなくアジア等の外に向けた視点も入れていくべきではないかと思います。

この間、西表が世界遺産に登録されました。これは、新しい時代の新しい事象の一つですので、それを八重山という捉え方の中でコンセプトの中に入れていくことも非常に大事なことだと思います。

さらには、日本の国立自然史博物館を沖縄に導入しようする動きもありますので、そういった状況の変化を大きな捉え方の中でコンセプトの中に入れていく必要があるのではないかと思います。

しかし、それ以前に、平成10年にできた計画に繋がっていないように感じるものが気になります。どういう経緯があったのかを教えてください。

(事務局)

平成10年の基本計画は、それ以前の基本構想をもとに策定してあります。その後、財政的な面で次のステップに進めませんでした。次に、平成27年3月に基本構想書が策定されています。この構想策定は、平成10年の基本計画とそれ以前にできた基本構想をベースに引き継いだうえで新たに作り直したということをおっしゃっていますので、基本的にはその流れを汲んでいるものと捉えております。

今回、構想書の中の基本理念や展示理念のところの議論をお願いしていますが、基本構想書は既にできていますので、それをベースに今の時代、これからの時代に見合った考え方、コンセプトのあり方を委員の皆様にご提言いただきたいと考えています。

(大城委員)

平成10年の基本計画と平成27年の建設基本構想を基本的に踏まえて議論することは第1回会議で確認したと思います。

ただ、基本理念について、それが何かという具体的に明記されていません。これら二つの計画では抜けています。基本理念という言葉はありますが、その背景だけが書かれていて、めざす博物館像や活動テーマが書かれています。博物館像と活動テーマが基本理念であるというならそれでいいですが。

たとえば、市町村の総合計画では、基本構想—基本計画—実施計画がありますが、基本構想の中で基本理念が謳われ、そのもとに施策の基本方向がきます。

私が考えている基本理念は、たとえば「豊かな心と感性を育むヤエミュー」です。この基本理念を置くことによって、将来像やコンセプトが生きてきます。

(石垣委員)

私が皆さんに提供したこの資料は、平成5年に新石垣市立八重山総合博物館構想委員会が設置され、その中で基本理念、基本的な性格、新八重山博物館のあり方を検討し、その後、基本計画策定委員会が冊子を出しているものです。

それには、単なる八重山の博物館ではないアジアに開かれた日本最南端の市立博物館というものを基本理念として持っているわけです。そこには、「アジアを視野に入れる博物館」「科学技術・展示技術の進歩への対応を行う博物館」「ネットワークの構築を可能にする博物館」「亜熱帯・熱帯学習型観光を創出し、それへ対応する博物館」等が謳われていますので、これを踏まえていくべきだと思います。

(会長)

他にご意見があればお願いします。

(翁長委員)

平成10年の基本計画でアジアに開かれたという部分があります。資料の現博物館の基本理念とコンセプトには、素朴にして独自の庶民文化の収集保存と継承という部分があります。10年の時のアジアを視野に入れるというのが抜け落ちているように感じますが、運営上の問題や博物館を整備する中で支障になる部分など特別な理由があれば聞かせてください。

(事務局)

平成27年の基本構想策定時の委員の間の議論の中で、アジアというよりは世界とか海でつながるとかももう少し広い概念で捉えられる表現がないかという発言等があったようです。そのなかで基本構想では基本計画で書かれているアジアという表現から広く捉えられる世界という形の表現になっています。

(翁長委員)

事務局の説明では平成10年の基本計画を継承しているということですが、八重山地域においては、観光客が100万人を軽く超えており、アジアからも多くの方が来訪されている。その中には八重山の持つ文化に興味を引かれて来る方もいますので、そうした方を含めてアジア、世界に向けて発信するというのも理念の中に入れたほうがよいと思います。

(事務局)

事務局が示している案は、議論のたたき台があったほうが議論しやすい若しくは意見も出やすいだろうという考えで作っていますので、そこにアジアをはずすとか世界を入れないという意図はありません。

ただ、現博物館には、どのような理念やコンセプトがあるのかというところを古い資料を調べてみたところ基本構想や基本計画という冊子的なものがなくて、いきなり設計に入ったようです。復帰記念事業として政府に提出する申請書の文言が資料に記載してあるものですが、そこから地域に根ざした博物館を作ろうとしていたことがわかりましたので、それを引用しつつ今の博物館から発展していくものとして、アジアや世界、その辺りをうまく取り込んだ理念など色々な意見を事務局として整理しながら提言の中に取り込んでいきたいと考えています。

(花城委員)

現博物館には、地域に根ざし、地域に学び、地域に奉仕する博物館というテーマや理念があります。こういう事業は、基本構想、基本計画、実施計画、設計という流れで進めていくべきです。理念がその都度変わっているように見えても実は中身はそんなに変わっていないので、博物館の理念というものはそういうものだろうと思います。

繰り返しの議論ではなく一歩でも先に進めるような形で、いつになったら基本計画や実施計画を行うのかその流れをタイムスケジュール的なものをお示しいただきたいと思います。

(事務局)

構想書全体を作り直すということではなく、理念やコンセプトについてこれからの時代に向けた新たな提言として整理します。その後、その提言と構想書をベースに基本計画の作成に入り、実施設計、基本設計、着工という流れで順次作業を進める予定です。

平成10年の基本計画策定後に進まなかった事業を今回は前に進めていくということで、皆さんのご意見を賜りたいと思っていますのでご協力お願いします。

(大城委員)

この有識者会議の役割は、基本構想や基本計画を作るということではなく、今後、国や県に概算要求をする際の基本となる資料を作るにあたり、その内容に魂を入れるための検討を行うということによって受け止めています。

(高良委員)

この有識者会議は、これまで過去に検討された報告書がありますので、その議論を踏まえた上で新しい八重山博物館はどのような考え方や理念でどういう目的のために建設するのかということクリアにして、現実の可能性を含めてチャレンジしていくための仕掛けを議論する場だと理解しています。

(翁長委員)

有識者会議の論点を明確にしてほしいです。先ほど予算要求のための資料作成等の話がありましたが、予算確保できずにこれまで実現できていない中で、実際にどこまでの議論を行えばよいのか小切間委員はどうお考えですか。

(小切間委員)

沖縄振興計画が新たになる中で、新八重山博物館を作ることがどういう形で沖縄全体の振興に資するのかを整理することは、予算獲得の前提として大事なことだと思います。国、県に対して博物館を建設することの意義を訴えていくための理念やコンセプトそういったところを有識者の皆様にご議論いただいて確認をしていくことに意味はあると思います。

(事務局)

第1回会議で確認したように新しい博物館を作るという基本理念とコンセプト、展示理念とコンセプトの2点に絞ってご意見を頂きたいということです。それらを受けた後に予算獲得に動くのは我々のこれからの作業です。

頂いた意見をもとに、確実に前に進めることを考えていますので、いろいろ揉んでいただきながら特に形にならなくてもいいと事務局は思っています。ご意見を提言書の中で整理し、今回の有識者会議の提言として報告していく形にしまして、今後の行動については我々が責任を持って進めていく考えです。

(小切間委員)

平成10年に基本計画、平成27年に基本構想書が出ていまして、その中で博物館の基本的な理念や方針は非常に立派なものできていると思いますので、それをあくまでもベースとしてそのまま置くとしまして、ここで議論するのは、基本

計画から23年、基本構想から6年経っていますので、その時勢に応じて、ここ8年くらいで非常に観光客も増えて、世界との繋がりが大きくなっていますので、世界に開かれた八重山博物館にしようとか。又は、デジタルトランスフォーメーションの進展もありますので、デジタルを活用した形での情報発信みたいなところをコンセプトに大きめに盛り込んでいくとか、時代に応じたアジャストみたいなものを有識者の皆様からこういうところを付け加えたいとか、コンセプトの中のこういうところは時代に合わないから小さくしていいみたいな時点修正のようなところを議論したほうがスムーズに行くのではないかと考えています。

今日出していただいた案は、叩き台とはいえほぼゼロベースで議論するような形になるとなかなか議論が発散してうまくいかないのかなと考えています。

(花城委員)

今の意見に大賛成です。今回このコンセプトを新たに作るような感じがしますので、先ほどのお話のように前の計画から繋がっているのであれば、平成10年あるいは平成27年にできた報告書のそれぞれに書かれているコンセプトや理念はこういうものですと示した上で、付け加えるものはどうしますかという議論であればとてもわかりやすいです。

どうしても過去に議論されてきた内容ですので、時代や状況も変わってきていますから、そこは見直すものは見直した方がいいと思っています。そういうストーリーになっていて、我々のミッションもその部分ですということであれば、とてもわかりやすいと思います。

(高良委員)

全体的な共通事項について私も納得できました。前回の有識者会議の後に、仮設の収蔵庫2棟を含めて博物館施設の状況を見せてもらいました。現実的な問題としまして狭隘化・老朽化している博物館施設は限界状況となっていますし、そこに集められた貴重な文化遺産も危機にさらされています。

あの状況で管理するのは大変でして、ある意味で放置されている状況をどのように救済し未来に繋げていくかという緊急性の問題もあります。

50年前に県内2番目の博物館が当地で誕生し、博物館として活動し、実績を残してきたその蓄積が実は危機にさらされているということを念頭において、新しい博物館建設のための理念や考え方を整えて、それを実現するための様々な仕掛けや動きなどを捉えながら、早く見通しをつけて整備を急ぐべきだと思います。

(天久委員)

高良委員からお話があるように、現博物館は狭隘化・老朽化の問題がありまして建設を急がなければいけないため、平成10年と平成27年に2度チャレンジした経緯があります。昨年度、教育部内の検討会議において、石垣市に合った規模で、華美な設計にしないということで八重山の貴重な財産が保管でき活用できる十分なスペースがあればいいのではという議論がありました。

予算要求などを急がなければならないという事情と、建設するからには八重山らしい、素晴らしいものをとということで、有識者の委員の皆さんに議論していただいているところですので、八重山博物館をこういうものにしたいという率直な意見をまとめまして、計画以降の先に進めていきたいと思っています。

(高良委員)

第1回の有識者会議でも発言しましたが、八重山は明和の大津波で大被害を受けていますので、新しい博物館は被害が及ばない高台に持っていき、先人の培っ

てきたものを未来永劫に残すということも大事です。

しかし、立地については、博物館を安全な場所につくる議論の他に、市民が利用し学び愛される博物館になるためにはどこに立地すべきなのか、そして、石垣市民の安全や街づくりを含めて考えて議論すべきだと考えています。

また、箱については、有名な建築家に設計を依頼し建物自体が作品であるようなものにするのか。また、長期間活動を行えるような機能的で各市民の家にあるお宝を寄託・寄贈する場合に博物館が受け入れることができるようなしなやかで豊かな空間を持った博物館にするにはどうすればよいか議論してほしいです。

(会長)

現在の博物館は、どうして今のところに作ってあるのか。海に近くもし津波があったときはどうするのかということが検討されずに市長がここでいうからここに作ってしまったところがあります。こういうこともおそらく大きな問題になっていますので、場所についても当然考えなくてはいけないと思います。

(花城委員)

これから求められる博物館として、私の意見を述べさせていただきます。平成10年の報告書は、すごく先を見込んで博物館を作ろうとしていたと思います。八重山博物館は、石垣島だけではなく周辺の島々を含みますので、今回、西表が世界自然遺産になりましたのでフィールドミュージアムという概念を入れ込んで、そこをしっかりと保全し、教育活動に使っていくという位置づけをしてほしいと思います。

八重山全域の貴重な植物等の標本をどうするのか。そして、研究はどうするのかということは非常に重要ですので、八重山博物館の中で研究ができるような仕組みをつくり、しっかりとした研究機能を持たせるという意気込みで進めてほしいと思います。

博物館は、とてもやることの幅が広いので一つの建物の中に閉じ込めるのは非常に難しいと思いますので、海を含めて八重山博物館だからこその機能という機能を十分に発揮してほしいと思います。

県立博物館・美術館の常設展示は、博物館7割、美術館3割の割合でお客さんがきます。総合博物館であれば美術館的な機能を含めると思いますので、美術館としての機能をどのように持たしていくのかを議論する必要があります。美術館で絵画展示会があるときは、沖縄島からは来ることができますが、宮古・八重山からはなかなか来ることができませんので、そうした展示物をきちんと展示できる機能を持たせておくことで宮古・八重山の皆さんにも共有することができますのでそのあたりはお願いしたいと思います。

(会長)

現在の博物館を作る時に市長は、あまり八重山ということを考えなくて石垣市立博物館ということでした。しかし、この八重山は沢山の島々があって、それぞれの島に個性的なものを持っている。そして、我々の八重山文化というものを考えるときは、石垣市だけの資料博物館ではいけませんよということいろいろ話し合った結果、八重山という言葉を入れています。その意識というものは絶えず持ち引き継いでいかなければならないと思います。

(高良委員)

旭橋バスターミナルの複合ビルは、再開発の中に県立図書館を呼び込んで街づくりのパートナーに加えています。県立博物館・美術館は、那覇市の新都心の跡

地利用の一環として作られた目玉施設として展開しており、浦添の場合は、カルチャーパークという開発のコア施設として浦添市美術館を整備しています。

博物館は、石垣市の街づくりの中でどのような位置づけになるのか。どの場所にどのような内容の施設がふさわしいのか。肝心なのは石垣市の街づくりの中で博物館をどのように活用するのかということだと思います。

(翁長委員)

先ほど、博物館の市民の利用が少ないという話がありましたが、博物館を市民に開かれた愛されるものにしていくために、小中学校のカリキュラムの中に博物館を活用する内容があってもいいと思いますので、子どもの頃から博物館に通えるような、博物館に対する思いが醸成されるような環境を是非作っていただきたいと思います。

石垣市にあった華美にならない博物館という話が先ほどありましたが、夢を語るという意味ではこの足かせを取ってもらって、市民の皆さんが喜んで使える観光客の皆さんも興味を持って訪れる夢のある博物館を建設してほしいと思います。

常設の屋内展示だけでなく、屋外展示のあり方等を含めて広げた形で発展的にできればと思っています。県立博物館とまではいいませんが、延床面積が6,000㎡に近いような博物館であれば八重山における文化の発信源になっていくと思いますので自信を持って進めていただきたいと思います。

(小切間委員)

27年の基本構想書に石垣市の観光振興等に寄与するという方針が掲げられていますので、市が新博物館を作るということは観光施設を作るという形で考えています。石垣の場合、雨天時の観光が難しいという現状がありますので、そのような時に今日はマリンのアクティビティができないから博物館に行って文化的なものをということで気軽に行ける博物館であればと思います。

その時に大事なことは、アクセスの話でして浸水被害がない高台にとというのはもちろんですが、市街地からのアクセスや空港からのアクセスということを加味しまして、市民が普段から使いやすい観光客も気軽に行けるような場所に建設できればと考えています。

八重山の文化は、沖縄本島とも違う独自で素晴らしいものだと考えています。博物館は、収蔵するだけではなくて展示でアトラクティブに魅力的に見せていくことが非常に大事だと思いますので、コンセプトをきっちりして面白く見せるということを考えて、市民や観光客の皆さんが素晴らしいと感じるようなものを皆でアイデアを出しながらできればと思っています。

(大城委員)

博物館の目的・機能のところまで話がいらいますので、それに関連してお話したいと思います。先程、翁長委員からもありました今日の資料の5・6ページ、これは平成10年の基本計画の中での施設計画ですが、博物館の目的のひとつには楽しむということもあると思います。天体観測室や展望デッキができるかどうかは別にしまして、6ページにありますミュージアムショップ、カフェ、レストランのように市民や観光客が気楽に来て楽しんで休めて休憩して眺めて感心するという施設であれば利用度も上がると思います。

それと、研究機能というところに関連して、大学との連携による人材育成、学芸員の育成や共同研究の推進ということをやってほしいです。当然、これは構想に入っているとは思いますが、博物館がそういう機能を果たしていくためには、そこにいる人材の高度化が必要だと思います。

(会長)

貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。これをどのように扱っていくか、活かしていくかということをやらなければいけませんので、またご協力をお願いしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

次にその他とありますけれども、事務局より何かありますか。

(事務局)

特にありません。

(翁長委員)

規模のところは説明されますか。

(事務局)

これは参考資料ですので、大きさなどのイメージをしていただくための参考にさせていただければと思います。

(石垣委員)

何度も繰り返すようですが、みんなこれに入っていますのでこれを確認して進めるかどうかを審議してください。いろいろな意見はありますが、これを加えるのではなく前に戻ってこれをやってほしいということです。

新たに加えるにしてもみんなこれに載っていますので、それを認めて進めるようにしてください。

(事務局)

石垣繁委員の資料を認めるということですが、石垣委員としてはここに書かれていることを継承してほしいということですので、それを踏まえて事務局として提言の整理を行いますので、よろしくをお願いします。

(花城委員)

平成10年の計画は、いつの時代にも通用できるような計画ですので、そこをベースに直すべきものは直し、時代にあわせて付け加えたり、計画に載せていたけれども作る必要がなくなったものは除いて自然にあるものを活用するというようにすればよいのではないかと思います。また、予算の関係で1回でできなければ段階的に整備する方法もあると思います。

そのためには、先が見えるような形のスケジュールを示していただいて、それを踏まえた上で議論ができるような会議であればと期待しています。

(翁長委員)

博物館建設については、長い時間を要していますが、今回の有識者会議が議論のうえに議論を積み重ねるようなことになってはいけないと思います。

花城委員からも先ほど話がありましたように、前に進めていくための形しっかりとした方向性が見えることが大事ですので今回は確実に実現していくということを何らかの形で示していただきたいと思います。

(会長)

ほかに何かございますか。

(石垣委員)

私の提案したものを受けて、どうするかを皆に諮ってください。理念も皆さんの言いたい意見もみんな示されてちゃんと包含されていますので、それを我々が確認してことを進めてください。

(天久委員)

ご意見ありがとうございます。先ほどの石垣繁委員からの意見や委員の皆さんからのいろんな意見がありましたので、石垣委員の意見も含めて今後の提言等の参考にさせていただければと思っています。

(会長)

皆さん、本当にありがとうございました。後は、事務局の方でお願いします。

(事務局)

会長どうもありがとうございました。

次回の会議日程について説明します。資料の7ページをご覧ください。開催日程調査における委員の出席状況を踏まえまして、8月19日木曜日の14時からを予定しています。第2回会議のように新型コロナまたは台風の影響等により日程変更が必要な場合は事前に調整させていただきます。

本日は、長時間にわたりご議論いただきどうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。